

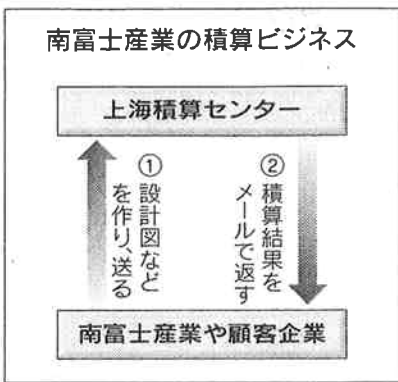
南富士産業

上海に積算センター

設計図から建築費算出 他社から受託狙う

八角形住宅などを施工・販売する住宅メーカーの南富士産業(静岡県三島市、杉山定久社長)は中国・上海に、建物などの設計図から建築費用を算出する積算業務の拠点「上海積算センター」を設立した。年内をメドに他社からの受託も始める。人件費の安い中国で業務すると建築コストが低減できるため、建設業者などからの需要は大きいとしている。

南富士産業の積算ビジネス



同社は国内拠点で積算してきたが「中国では費用が三分の一程度にできる」(杉山社長)として移管を決めた。同業務に関する経費は年数千万円だったとみられる。上海積算センターはビルの一室に事務所を設け、二人の中国人現地スタッフを配置した。日本からファ

クスで図面を送信。どの材料をどう使い、工事費は合計でいくらになるかを計算した結果を電子メールで日本に送り返す。

センターの設置費用はコピーやスキナーの購入などで五百万円程度。自社で手がける住宅の屋根や壁などの積算業務を月間百五十棟程度こなしており、四月以降は建物全体の計算を始める。

「二―三件の建設業者から委託したいとの依頼がある」(同社)ため、中国人スタッフの増員も計画。日本での研修など

も予定している。早期に月五百棟分の注文がこなせる体制にする。

二〇〇四年三月初期の経常利益は五千万円程度。

積算センターの稼働や業務受託で早期に一億円前後にまで増やす方針。同社によると、積算業務の拠点を海外移管した住宅メーカーはないという。